

東建パブリニュース

平成29年12月11日

経営管理本部 広報IR室

《このニュースは、当社に関連する記事が掲載された新聞・雑誌等の情報を逐次、速報するものです。》

掲載

平成29年11月27日 日経産業新聞 P.12

●当社に関する記事の掲載がありましたので、以下の通りご報告いたします。

東建コーポ、ホテル参入 都市部の宿泊需要見込む	名古屋で
東建コーポレーションはホテル市場に参入する。名古屋市内で高級ホテル、ビジネスホテルを2022年までに開業させる。リニア中央新幹線が27年に東京―名古屋間で開業を予定するなど	今後、名古屋での宿泊が増える判断した。これまで三重県内でゴルフ場を併設する会員制リゾート施設を手掛けてきたが、ホテル経営に乗り出し、都市部の宿泊需要を取り込む。
名古屋市の繁華街である栄地区の大通り沿いでコインパーキングがある土地をこのほど取得した。この土地に地上20階建ての高級ホテルを建設する。上層階にレストランなどを備え、111室	の部屋を用意する。宿泊料はスイートルームタイプで1泊1室12万円台、標準タイプで3万5万円台と高価格帯を想定している。
新ホテルの目玉に位置付けているのがスイートルームだ。1階が会議などに使える応接室、2階が宿泊室という2階構造の部屋になっている。「名古屋で2階構造の部屋は珍しく、ニーズが見込め	る」（同社）とみる。栄地区の市営地下鉄新栄町駅から徒歩15分ほどの場所で、コインパーキングを営んでいる土地も取得した。この土地にはビジネスホテルを建設する。宿泊料は5000円程度とビジネス客や若者でも宿泊しやすい割安な料金に設定する計画だ。
高級ホテル、ビジネスホテルとも19年に着工し、22年までの開業を目指す。訪日外国人客（インバウンド）や中部圏への出張者の宿泊需要が増え、名古屋のホテル稼働率は高水準で推移している。市内のビジネスホテルの平均稼働率は10月に88・2％と、前年同月より1・2ポイント高い。エリア別に見ると名古屋駅周辺が92・2％、栄地区が84・8％で、予約を取りにくい目安とされる80％を超えた。	しており、ほぼ満室の状態だ。宿泊需要を見込み、ホテル建設は活発になっている。栄地区だけで西日本鉄道やアパグループ（東京・港）などが18年までに10カ所以上のホテルを新設する計画だ。東建コーポは主力の賃貸住宅の受託建設事業をはじめ、大半の事業を郊外を中心に展開してきた。

以上